経営協議会の学外委員からの意見を法人運営に反映した主な事例（平成 29 年度）

経営協議会の学外委員からの意見	本学の取組状況
◆平成 30 年度概算要求の状況について ・高大接続について、昨今偏差値が高いから医学部を志望するなどの傾向が見受けられるが、自分が大学に行って何をするのかをもっと考えて入学してもらえるよう、高校生に向け、キャリア設計等の問題意識をもって学部を選択するような仕組みを大学自ら高校に働きかけるなどの取組を実施していただきたい。 （平成 29 年 5 月 18 日　経営協議会）	・学長自ら高等学校を訪問し，本学の魅力及び学問や研究の面白さを高校生に伝えることを目的とする講演会を 3 回（県立船橋，県立佐倉，市立千葉）実施した。 ・高等学校が開催する進学相談会等に 138 回出向き，以下の点に留意し説明を行った。 　▫ 大学で何を学びたいか，大学で何を身に着けたいのか，卒業後の進路，キャリア設計も念頭に学問分野を選んで欲しいこと 　▫ 大学でどのような研究がなされているのか，自分が希望する内容・研究分野があるかを調べ，志望大学を選んで欲しいこと
◆ソフト分子活性化研究センターの設置について ・「千葉ヨウ素資源イノベーションセンター」として、生命科学から解析系までの部門があると整理した方がよいのではないか。特に、設置決定や竣工式の際にその都度で記者会見を行って積極的にアピールするなど、上手に宣伝された方がよい。 （平成 29 年 9 月 21 日　経営協議会）	・「ソフト分子活性化研究センター」の組織図に、生命科学から解析系までの部門があることを整理し、その中に「千葉ヨウ素資源イノベーションセンター」も位置づけた。 ・文部科学省「地域科学技術実証拠点整備事業」への採択決定（新聞）、入居企業 4 社との 5 者連名包括連携協定の締結（新聞＋NHK）、開所記念式典（新聞＋NHK）と、節目には必ずプレスリリースを実施した。 ・日本経済新聞・日刊工業新聞など複数の新聞社で前述の節目とは別に特集を組んで頂いたほか、平成 30 年 9 月 26 日の朝に放送された J-WAVE「TOKYO MORNING RADIO」（生放送）に関理事が出演し、ナビゲーターの別所哲也氏と千葉ヨウ素資源イノベーションセンターに関する対話を行って本事業を積極的にアピールした。

◆ソフト分子活性化研究センターの設置について ・「千葉ヨウ素資源イノベーションセンター」という名前は非常にはっきりしている。地方創生の側面もあるが、応用研究の側面も重要であることから、既存の企業と関係を構築して、研究を進めることも大切であると思う。たとえば企業家をこの分野から生み出すような仕組みを考えているのか。 （平成 29 年 9 月 21 日　経営協議会）	・入居企業 4 社とは、既に共同研究契約を締結して研究活動を実施している。また、入居企業以外の企業とも関係を構築し、うち 3 社（平成 30 年 11 月現在）とは共同研究契約に発展した。今後、さらに企業との連携を密にして研究活動を加速させるとともに、5 者連名包括連携協定などに基づく非競争領域におけるオープンイノベーション活動を推進していく。 同時に、本センターは若手人材育成の側面も持ち合わせている。企業と大学が活発な研究活動をする中で博士課程の学生が研究に参画するなど、この分野で最先端の専門知識を習得した優秀な若手人材が、研究者や企業家として社会に輩出していくことを想定している。
◆平成 30 年度計画（案）について ・学生の海外派遣数が国立大学の中で全国 1 位であるが、どのような国に派遣されているのか。もっと宣伝したほうがよい。 （平成 30 年 3 月 15 日　経営協議会）	・平成 30 年 7 月発行の「千葉大学概要（データブック）」において、学生の派遣先（国）および国ごとの派遣人数について、掲載した。 ・平成 30 年 3 月発行の「ちばだいプレス vol.43」および平成 30 年 7 月発行の「千葉大学概要」において、学生の海外派遣数が国公立大学中第 1 位である旨、掲載した。
◆平成 30 年度学内予算配分（案）について ・寄附を増やすためには、きちんとした組織を作り、千葉大学の卒業生で金融経験者を複数雇用する必要があるのではないか。 ・アラムナイメイトを通して、寄附を集めることができるし、若い人は寄附金でどのような効果がでるのかなどを知りたがっている。アラムナイメイトを学校に呼び講義していただくなど工夫が必要である。 （平成 30 年 3 月 15 日　経営協議会）	・平成 28 年 7 月から民間企業で実績を積んだファンドレイザー（学長特命補佐）を雇用するとともに、教員、事務職員との連携・情報共有を目的に、各部局等に部局連絡員を配置し、全学の協力体制を強化した。 ・毎年 11 月に校友会総会・ホームカミングデーを開催し、本学卒業生の講演等を実施している。その際、SEEDS 基金の取り組みについて紹介し、寄附金の獲得に努めた。